

彙報

真宗学会

◇真宗学会大会

十一月八日(木) 於 図書館講堂
不遠の論理 本学講師 大門 照忍
悲について 東京神学大学教授 北森 嘉藏

◇『親鸞教学』第二十三号発行

出席者||栗原学会長、松原・藤原・幡谷
各教授、寺川・臼井各助教授、大門・
本多各講師、小野・江上各助手、林特
研員、広瀬・井上各特研生、外諸先生
方、学生約一三〇名
十一月二十日

從徳論

目次
出遇い 金子 大栄
報身についての一考察 安田 理深
—特に因願酬報の意義を中心として— 幡谷 明
現生は願心の所与なり 本多 弘之
願力への観 井上 恵樹
御文の研究 久我 信

—タノムという意味について—
『歎異抄』の眼目 蜂箇 裕善
—機の深信を中心として—

親鸞の観経観 土方 慶
—顕彰隠密の世界—
信における自力・他力 曾我 量深

◇修士論文中間発表

十一月二十二日(木) 二〇九教室
信の一念について 大平 真理
真宗における仏性の研究 川出 昭順
衆生の大地性 森 知信
—願生の意義— 滋野 憲雄

善導の弥陀仏身観 出席者||栗原学会長、松原・幡谷各教授、
寺川助教授、小野・江上各助手、林特
研員、広瀬・井上各特研員ほか学生約
四〇名

◇卒業論文中間発表(一)

十二月六日(木) 於 二〇九教室
非僧非俗試論 田中 興宣
—教行信証後序を中心として—
宗教への勇氣 河谷 正雄
法蔵の願心 高田 真澄
—願生道への一考察—

歎異抄について 薄井 候
出席者||栗原学会長、幡谷教授、寺川助
教授、小野・江上各助手、林特研員、
広瀬・井上各特研生ほか学生約五〇名

◇卒業論文中間発表(二)

十二月十一日(火) 於 四〇六教室
願生心について 炭竈 智雄
廻心 本多 智見
—親鸞における宗教的決断—
念仏 稲田 俊明

『観無量寿経』機根論 奥村 裕明
親鸞における「即」の構造 西道 了昌
善導廃立論 宮堂 宏宣

出席者||栗原学会長、藤原教授、寺川・
臼井各助教授、本多講師、小野・江上
各助手、林特研員、広瀬・井上各特研
生ほか学生約五〇名

仏教学会

◇例会—研究発表—

十月二十五日(木) 於 二〇八教室
一、原始仏教における正法について
特研生 野々目 了氏
一、小乗戒と大乘戒

教授 佐々木教悟氏

出席者 雲井昭善会長ほか学生・教職員

合わせて四十余名

◇『仏教学セミナー』第十八号発刊

十月三十日

〈目次〉

初唐法宝の仏性説について 富貴原章信
仏教における僧伽の基本的理念について

佐々木教悟

如来性起經典の怪—その正体をめぐる常

盤・高峰説への疑義— 鍵主 良敬

中辺分別論(障品)の和訳並びに研究(1)

舟橋 尚哉

無性の学流について—チベット訳をテキ

ストとして— 片野 道雄

〈書評・紹介〉

Bibliothèque Nationale : Catalogue

des Manuscrits chinois de Touen-

houang (Fonds Pelliot chinois)

平野 顯照

大谷大学図書館編 西藏文獻目録

小川 一乘

Walpola Rahula : Le Compendium

de la Super-doctrine (Philosophie)

(Abhidharmasamuccaya) d'Asaṅga

吉元 信行

◇史蹟踏査

十一月十八日(日)

湖東の西明寺(天台宗)、金剛輪寺(同)、
百濟寺(同)、永源寺(臨濟宗)の各史
蹟を拝観した。

参加者 雲井昭善会長ほか四十余名

◇例会—研究発表—

十二月六日(木) 於 二〇八教室

一、インド学仏教学への警鐘

博士課程二回生 宮迫 智氏

一、バルラムとヨサファート

博士課程三回生 渡辺 愛子氏

一、賢聖義略問答について

教授 富貴原章信氏

出席者 雲井昭善会長ほか学生・教職員

合わせて五十余名

国史学会

◇吉備地方研究旅行

九月三十日~十月二日

九月三十日(日)

国鉄吉永駅午前九時三十分集合、チャ

ーターバスにて旧関谷学校・蕃山千手

院・伊部真光寺・福生寺・備前古陶美

術館を見学。国民宿舍牛窓荘に宿泊。

十月一日(月)

国民宿舍牛窓荘を午前八時四十五分出
発、本蓮寺・余慶寺・西大寺・岡山城
・吉備津彦神社・吉備津神社を見学。
東総社旅館きび路に宿泊。

十月二日(火)

旅館きび路を午前八時三十分出発、備
中国分尼寺跡・国分寺・宝福寺・児島
五流尊滝院・倉敷勝福寺を見学、午後
四時倉敷駅前にて解散。

引卒指導 堅田教授、佐々木(孝)講師、

豊島特別研究員。参加学生二十三名。

◇卒業論文中間発表会

十一月七、十七、二十一、二十四日堅

田ゼミ 浅野一恵「古代の美濃」、柏原ゼ

ミ坂本真由美「石門心学の研究」ほか二

十二名発表。

出席 柏原教授、堅田教授、佐々木(孝)

講師、豊島特別研究員ほか学生多数。

◇南山城方面史蹟踏査

十一月十二日(月)

見学場所 〓 寿宝寺・普賢寺・朱智神社、天王墓地石造遺品。

引卒指導 〓 堅田教授・佐々木(孝)講師、豊島特別研究員。参加者 〓 羽咋工業高校教諭 西山郷史氏ほか学生十一名。

◇ 大谷大学国史学会秋季大会

十二月二日(日)午後十二時半

大学院修士論文中間発表

- 一、禅宗と尺八をめぐる伊東 久之
- 一、修験道医療の形態 根井 浄
- 一、茶と日本人の生活 宇津木秀司

公開講演

- 一、夢―その文化史的一考察― 教授 堅田 修氏
- 一、日本宗教史に於ける顕密主義 大阪大学教授 黒田 俊雄氏

出席者 〓 柏原教授、堅田教授、梅津講師、佐々木(孝)講師、豊島特別研究員、城南高校教授山香茂氏、学生四十五名。

日本仏教史学会

◇ 『仏教史論』第7号発刊(十一月十日)

〈特集・古代仏教史〉

史代における陰陽道 小松 崇
国分寺考―特に「毎家」を中心に― 吉田 環樹

太子信仰の発生について 宮 一弘
行基研究の一試論 谷端 昭夫
〈研究〉

香樹院徳龍と東本願寺学寮 上場 顕雄
〈修士論文から〉

百濟寺創建の周辺 中島 祥好
時宗道場の変質 鷲尾 恵水
加賀藩における教如教団の形成 佐藤 義裕

〈評論〉

浄土他界考 美藤 康夫
〈史料紹介〉

『家久弁』―近世末期・ある道場役の倫理― 大桑 斉

◇ 修士論文中間発表会(第二回)

十月二十四日(水)午後一時三〇分

於 一号館会議室
古代末期における専修念仏受容可能態の形成 荒川 正憲
権力と仏教の接点―徳川家康を中心に― 真田 喬

地方真宗教団史―特に白川郷を中心に― 島 仲

最澄をめぐる諸問題 長谷川小四郎

古代後期における求道の形態 深田 博明

赤松教授・名畑助教授・大桑助手・佐々木特研員、他学生二十余名の出席を得て発表を中心に討論を行った。

◇ 見学会 十月十一日(木)午後一時

国立博物館にて浄土教絵画展見学の後、智積院・東福寺・泉涌寺を見学。指導 〓 名畑助教授、参加学生十四名。

東洋史学会

東洋仏教史学会

中国文学会

◇ 三学会中国・韓国帰朝報告会

十一月二十九日(木)二時三十分

六時 於 図書館講堂
中国仏教界の現状(スライド使用) 助教授 滋野井 恬氏

韓国史蹟踏査を終えて

。報告 専任講師 藤島 建樹氏

。スライド解説 仏蹟之部

大学院生 大内 文雄氏

史蹟之部 大学院生 吹田 和光氏

◇中国文学会

中国文学会定例研究会
十月二十七日～二十八日

於 米原・小林屋
参加||平野教授・河内専任講師・若槻助手・他専攻学生十三名。

定例の四回生卒論指導を目的とした研修会で、夜を徹して種々のテーマに対する熱心な質問討議が行なわれた。
中文四回生卒論中間発表会
十二月三日(月)二時三十分

於 三〇五番教室
出席者||河内専任講師・若槻助手、他学生十二名

◇東洋仏教史学会

研究旅行と修論・卒論中間発表
十一月十九日(月)

高野山遍照光院にて中間発表会。翌二十日(火)高野山大学図書館及び霊宝館を見学。午後四時大阪にて解散。

指導||稲葉教授。参加||稲葉教授、大内特研究生、ほか院生・学生八名。

◇東洋史学会

卒論中間発表会

十月十一・十八日(木) 於 会議室
出席||野上教授、滋野井教授、藤島講師
ほか専攻学生五十余名。

国文学会

◇中国文学科と協力して、研究誌『文芸論叢』第一号を刊行した。論文題目・執筆者は次の通りである。

伊勢物語より源氏物語へ―「ねよげにみゆる若草」の歌の文芸的展開について

― 鷲山 樹心
山本 唯一

蕪村文学の精神性
土屋文明論序説―歌集「ふゆくさ」を中心として― 有田 静昭

「靈異記」と「眞報記」について 入部 正純

コソ・カ変遷の一面 片岡 了

「文選」注にあらわれたる李善の仏教 平野 顕照

◇秋季史蹟踏査

―資料紹介―
山川登美子日記抄 沢田みずほ
(A5判61ページ 定価五百円)

◎文学部(九月三十日～十月一日)

見学場所||伊賀上野方面(俳聖殿・白鳳城・養虫庵・芭蕉生家・鍵屋辻など) 室生寺・長谷寺・三輪明神。

参加者||山本教授・仲野教授・渡辺助教
授・有田講師・石橋助手および学生三十余名。

◎大学院(十月五日)

見学場所||笠置・井手など。
参加者||山本教授・石橋助手および学生八名。

英文学会

◇卒業予定者論文中間発表会

十一月三十日～十二月一日
於、研究室二十二番及び八番教室等。

出席者、福永教授、内藤・山下各助教、櫛原講師、松田助手、および学部専攻生約六十名。

大谷大学哲学会

◇大谷大学名誉教授であり、本会会員でありました立花勝先生が、十一月三日に亡くなられました。先生の御功績や略歴等

は、無尽燈等と重複しますので省略させて頂きませんが、本会の機関誌である『哲学論集』の第二〇号のために、先生に書いて頂きました論文が、遺稿となりました。この第二〇号は、昭和四十九年三月中旬に発刊の予定です。

◇十一月七日(水) 午後四時より

臨時総会を開催。本年度より学会会費を年額二千五百円とし、『哲学論集』の単価を第二〇号より三五〇円とする。以上の二点を決めました。

倫理学会

◇倫理学研究会

十二月十三日 於 図書館会議室

「愛について」

講師 種智院大学助教 横山 久安
出席者 寺崎助教、大屋助教、二条
講師ほか倫理学専攻の院々生及び学部
学生二十名。

横山講師の講演後、活発な質疑応答が交された。

教育学会

◇公開講演会

十一月二十一日(水) 二時半～五時

「子供の遊びと教育」

児童教育評論家 荒木 昭夫
出席 大竹助教、田中助手他、学生九十名。

社会学会

◇公開講演会

十一月十七日(土) 於 四〇六教室

現代家族の親子関係

大阪女子大学教授 阪井 敏郎氏
講演の後、阪井先生を囲んで討論会を兼ねた懇親の会を行った。
出席 高橋教授、豊嶋講師、松村助手ほか、学生・院生約四〇名。

短期国文科

◇一回生B組秋期補導懇談会。

十一月六日(火)

嵯峨野方面史蹟踏査。天龍寺・二尊院・落柿舎・野宮などを拝観し、清涼寺に

て昼食、補導懇談会をおこなう。大覚寺拝観ののち散会。

参加者 仲野教授、入部助手、学生二十余名。

◇一回生A組秋期補導懇談会。

十一月七日(水)

高尾・梶尾方面史蹟踏査。十時京都駅前集合。バスにて高尾に行き、神護寺を拝観す。昼食後解散。

参加者 河内講師、入部助手、学生三十五名。

◇二回生A B組合同補導懇談会。

十一月二十六日(月)

犬山「明治村」見学。九時京都駅集合。新幹線・名鉄バスにて十一時すぎ明治村着。好天に恵まれ、午後四時すぎまで広い村内に点在する建築物をゆっくり見学した。午後八時京都有着、解散。

参加者 有田講師、片岡助教、入部助手、学生二十名。

(* 79頁下段に続く)